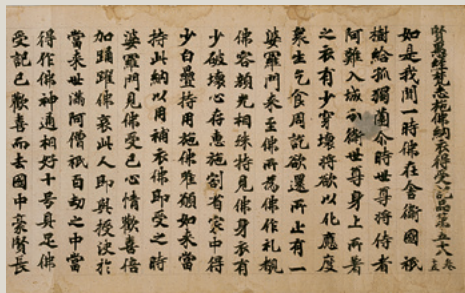


展示品の  
みどころ

賢愚経 卷第十五(大聖武)

国宝  
紙本墨書  
縦27.5cm 長1,245.4cm  
奈良時代(8世紀)  
奈良 東大寺



茶毘紙と呼ばれる奈良時代の写経。料紙には茶色い粒が漉き込まれており、これを茶毘に付された釈迦の遺骨の粉に見立てたため、この呼び名がある。従来、実際に料紙に漉き込まれた粒は香木の粉末とされてきたが、近年の研究では、料紙の原料である樹木、真弓の皮の一部などであることが判ってきた。

一般的な写経は一行十七字だが、こちらは一行十二字で文字が大きく、行の幅(界幅)も通常より広い。本品は通称「大聖武」と呼ばれるが、これは特徴的な料紙と風格のある大文字の奈良朝写経という特徴から、古筆鑑定の世界で、書き手を聖武天皇と伝承してきたためである。本品を含め、卷子の状態で数巻、また断簡(写本や写経を鑑賞のため切り取ったもの)が多数存在する。名筆を愛でる古筆鑑賞においては、最も珍重されたものの一つで、古筆の断簡を集めた手鑑では、冒頭を飾る。そうしたなかで、本品はほぼ本来の一巻の姿を保つ貴重な遺例である。

斎木 涼子(当館学芸部主任研究員)

◆7月13日～8月18日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

宝相華文透彫華籠

国宝  
銅製 鍍金銀  
径28.2cm  
鎌倉時代(13世紀)  
滋賀 神照寺



仏教法会(ほうえ)の場で紙・布製の花卉を撒く「散華(さんげ)」という供養法がある。生花をもって貴人をもてなした古代インドの風習が、仏・菩薩の讃歎供養の法として仏教に取り入れられたものである。この散華の花卉を盛る器物が華籠である。

滋賀県長浜市の神照寺に伝来した16枚の華籠は、宝相華文を透彫した金銅製の遺品で、類例の中では特に華やかな装飾性を誇る。16枚は文様や技法の特徴から、平安時代後期のものと、鎌倉時代後期のものに分類されるが、このたび展示する2枚は後者に該当する。

本品でまず目を引くのは透彫文様であろう。中心から三方に伸びた唐草(ぶんき)が分岐を繰り返して全面に展開する構成は巧みである。花の形や鍍金・鍍銀の使い分けで変化をもたせる点にも優れた意匠感覚が示される。文様表現を支える彫金の技も注目される。透彫の縁や花の細部を斜めに彫り崩し、文様に立体感をもたせるほか、花の葉などに多様な彫金技法が駆使される。加工痕がよく残り、幾分粗い仕上げに見えるが、かえってそれが手仕事由来の深味を感じさせる。鎌倉時代を代表する金工の名品をじっくりご覧いただきたい。

三本 周作(当館学芸部研究員)

◆7月13日～9月23日 名品展「珠玉の仏教美術」にて展示

開館日時(7月～9月)

■開館時間／午前9時30分～午後5時

- ・金・土曜日は午後8時まで。
- ・夏季特別陳列会期中(7月13日～9月8日)の日～木曜日は午後6時まで。
- ・8月5日(月)～15日(休)は午後7時まで、8月9日(金)・10日(土)は午後9時まで
- ※入館は閉館の30分前まで

■休館日／毎週月曜日

- ・7月15日、8月5日・12日、9月16日・23日は開館し、7月16日(火)、9月17日(水)・24日(木)は休館。

■無料観覧日(名品展のみ)

9月1日(関西文化の日プラス)

■観覧料金

名品展・特別陳列・わくわくびじゅつギャラリー

	一般	大学生	高校生以下
個人	520円	260円	無料
団体	410円	210円	無料

- ※団体は20名以上です。
- ※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料です。
- ※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生の方は無料です。
- ※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は、団体料金を適用します。[親子割引]
- ※開館時間延長日の午後5時以降に観覧される方は、団体料金を適用します。[レイト割引]



●バス停  
[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通「市内循環」バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車  
※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの県営駐車場等(有料)をご利用ください。